

平塚市市民活動推進委員会

令和2年度 第2回 議事録

日 時 令和2年7月14日（火）午後2時から午後4時10分まで
場 所 ひらつか市民活動センター
出席者 辻委員長、柳川委員、氏家委員、山田委員、市川委員、中野委員、吉川委員、
芦沢委員、土井委員、事務局
傍聴者 1人

1 令和元年度市民活動センター利用状況・事業報告について

2 令和2年度市民活動センター事業計画

令和元年度の市民活動センター利用状況（利用者数、利用団体数等）の説明を行った。また、相談内容の傾向・課題への対応、市民活動センター事業の実施報告、協働運営事業の成果の説明を行った。

併せて、令和2年度の市民活動センター事業の年間計画について説明した。

【委員からの意見・質問等】

〈委 員〉：資料2の相談内訳にフォローとあるが、初回の相談ではなく、2回、3回と継続して相談に来ているものを指すのか。

〈事 務 局〉：そうである。同じ相談内容において、継続的な相談になっているものを指す。

〈委 員〉：茅ヶ崎市の市民活動センターでも同様に3月、4月、5月を休館としており、開館した際も、利用人数の制限をし、多くの人が集まらないようお願いしている。

そのため、利用人数では、成果を図ることができないと考えているが、平塚市としては、単純な比較評価ができない状況下でどのように評価をしていくか、何かアイデアはあるか。

〈事 務 局〉：利用人数で比較評価をしていくことは難しいと認識しているが、今のところ具体的なアイデアはない。今後は、利用人数だけで比較するのではなく、フォローを増やし、利用団体に寄り添った対応をしていくことが一つの方法であると考えている。

〈委 員〉：議会などでは、どうしても利用人数を評価基準として考えられている部分もあるため、利用人数以外の評価があることは説明してほしい。相談件数が確実に増えていることが非常に良いと考える。

〈委 員 長〉：利用人数が減っていても相談件数が増えていることは、見える部分として非常に良い対応をしていることがわかる。Facebookの登録人数が増えたことなどでも良いのではないか。ネット上の利用者が増えたことなども評価基準となり得るのではないか。

〈事 務 局〉：ホームページをリニューアルした際も団体のイベント情報を前面に出してい

こうという提案を受けていたので、SNSでの情報発信は実施して良かったと考えている。

〈委員〉：茅ヶ崎市では、センターの休館により困ったことがあるかを団体にアンケートしたところ、意外にも困らなかったという回答が多かった。活動を休止していることもあったと考えるが、ホームページで情報提供を受けられたので助かったという意見もあったことから、ウェブ上の数字を取り入れても良いのではないか。

〈委員〉：資料4の6その他において、アンケート調査をした結果、174団体からの回答で約90%が満足しているとあるが、反対に約17団体は満足していないと考えられる。

どういった点が満足されていないのか又は不満があったのか。

〈事務局〉：大きな不満は聞いていないが、会議室の音の問題に対しての不満の声があった。

〈委員〉：自分も団体として、市民活動センターの会議室を利用しているが、天井の工事が行われていたことには気づいていなかった。昨年利用では、ものすごく音が反響し、参加者の中には頭痛を訴える方もいた。しかし、最近の利用では、そういった声はなかったため、音の状況は改善されていると感じる。また、会議室AとBを異なる団体が使っていると、隣の声が気になっていたが、それも最近は気にならなくなったので、効果はあったと考える。

〈委員〉：市民活動センターのFacebookを見ているが、こまめに情報をあげており、非常に良い。コロナ禍ではあるが、今後も頑張ってほしい。

〈委員長〉：6月から開始したオンライン（zoom）講座はニーズがあったか。

〈事務局〉：第1回目が10人、第2回目が17人と参加者が増えてきているため、第3回目を実施する。また、他市よりも対応が早かったこともあり、他市からの参加者もいるので、好評であると感じている。

〈委員〉：講座自体は市民活動センターで実施するのか。

〈事務局〉：そうである。事前にアプリをダウンロードできる方は、自宅等からオンライン上で講座を受けてもらい、現場の説明を希望される方は、センターで距離を取りながら講座を受けている。

3 令和元年度平塚市協働のまちづくり基金及び寄附状況報告

令和元年度平塚市協働のまちづくり基金の収支報告及び寄附状況について説明した。

〔委員からの意見・質問等〕

〈委員長〉：資料7の寄附状況の5番の公益信託ひらつか市民活動ファンドとは、ファンドの時の残額であるか。

〈事務局〉：そうである。

〈委員長〉：そうになると、令和2年度に同じような寄付はないか。

- 〈事務局〉：令和2年度にはないことになる。
- 〈委員長〉：資料6のまちづくり基金の収支では、マイナスになることは問題ないという認識で良いか。何年か掛けて財源を使っていく認識で良いか。
- 〈事務局〉：その認識で良い。
- 〈委員〉：資料6の3基金の活用事業の（1）補助金事業において、入門コース、発展コース以外に組織基盤整備コースがあったと思うが、今年度は申請がなかったか。
- 〈事務局〉：組織基盤整備コースについては、令和元年度及び令和2年度ともに申請がなかった。説明会では組織基盤整備コースに興味を持たれていた方はいたが、申請はなかった。
- 〈委員〉：組織基盤整備コースの制度自体のハードルが高いように感じる。作成資料が多いことやヒアリングシートを作ることもあり、ハードルの高さで団体が断念してしまうことはもったいないので、補助金を利用しやすいように制度を簡素化することも考えてほしい。
- 〈事務局〉：補助金の説明会を設け、丁寧に説明をしているところではあるが、御意見いただいたように、団体の自己分析をする必要もあることからハードルが高いと感じられてしまう。現時点では、相談があった際には、より丁寧に対応できればと考える。
- 〈委員長〉：寄付の目標額はあるのか。また、企業等からいただいている寄付もあるが、こういった働きかけをしているのか。
- 〈事務局〉：まちづくり基金の制度上は、年間200万円の寄付を目標額としている。当初積立額2,000万円に年間寄付200万円を10年間積み立て、計4,000万円となる基金を年間支出400万円で想定し、10年間の運用と考えている。
- 令和元年度では、市民活動ファンドの残額で約120万の寄付があったが、今後はないため、実際には約30万円の寄付額となってしまうことから、新たな寄付促進を図る必要があると考えている。
- 〈委員長〉：たすけ愛文庫とたすけ自販機で100万円程度集めるのは、難しいと思われるので、他に何か寄付を集める案があれば良いと考える。なお、広報はどうしているのか。
- 〈事務局〉：具体的な広報はできていないが、講座や事例表彰などのイベント時に周知はしている。良い案があれば、御意見を伺いたい。
- 〈委員〉：ホームページ上で広告を載せてクリックをすると寄付ができる仕組みなどがあると聞いたことがあるので、活用してはどうか。広告を見た方がひらつか市民活動センターのホームページをみるといった連鎖があるのではないか。
- 〈委員長〉：クラウドファンディングのようにインターネットでお金を集める仕組みは慣れてきている。学校などにアプローチするのもどうか。
- 寄付された企業は何かきっかけがあって寄付をいただいたのか。
- 〈事務局〉：社会貢献活動を継続されている企業であり、市民活動に対しても気にかけて

いただいている。また、地域にも寄付をされていて、地元を大切にしている企業であると聞いている。

〈委員 長〉：寄付をしていただいたことは広報しているのか。

〈事務局〉：情報紙“ひらつかの風”及び市ホームページで公表している。なお、非公開を望む場合もある。

〈委員 長〉：寄付の目標額に対して、工夫が必要だと考える。

4 令和2年度平塚市市民活動推進補助金審査結果

令和2年度の平塚市市民活動推進補助金事業の審査結果について説明した。

〔委員からの意見・質問等〕

〈委員 長〉：発展コースで1団体不採択とあるが、なぜ不採択となったのか。

〈事務局〉：事業内容は、平塚のビーチパークで子どもたちを対象としたビーチサッカーのイベントを、プロビーチサッカー選手を呼んで行うものであった。一回のイベントだけでは、公益的な活動につながらないのではないかという点が議論となり、不採択となった。申請時に、事務局から団体に対して、議論になってしまう可能性があり、事業内容の見直し等についてアドバイスしたが、団体の最終的な判断の中で申請された経緯がある。

5 平塚市みんなのまちづくり事例表彰について

第1回平塚市みんなのまちづくり事例表彰の実施報告及び第2回平塚市みんなのまちづくり事例表彰の実施方法について説明した。

〔委員からの意見・質問等〕

〈委員〉：2月のまちづくり事例表彰式に参加した。最初は、全然違った畑の事例も同列に審査するというので、審査しづらいものだと感じて戸惑ったが、実際に表彰式に参加したところ、非常に和やかであり、色々な方たちが交わる良いきっかけになっていると感じた。そのため、ぜひ継続して実施してほしい。ただし、コロナの影響で、活動自体ができていない団体もいるため、考慮した対応が必要だと考える。

〈委員 長〉：表彰式には、表彰された団体が参加していたのか。

〈事務局〉：そうである。

〈委員 長〉：表彰されなかった団体から不満の声などはなかったか。

〈事務局〉：そういった声はなかった。

〈委員〉：茅ヶ崎市がアンケートした際に、コロナの状況下でも「工夫して頑張っている」といった声も上がっていたことから、コロナの状況下でも頑張っているという応募があると他の団体も勇気づけられ、参考にもなると思う。

- 〈委員〉：例えば、資料10の3対象事例にある「継続的に取り組んでいる」の文言に加筆して、コロナの状況により活動が出来ていなくても応募可のような記載があれば、応募しやすくなるのではないかと。
- 〈委員長〉：今年度新しくやってみた活動、今年度はできていないが、今まで頑張って継続していた活動のどちらもあって良いと考える。
- 〈委員〉：審査基準に先駆性があるが、コロナ禍であっても、何か取り組んでいることや、始めようとしていることをアピールポイントに記載していただくような形式にしても良いのではないかと。
- 〈委員長〉：基本的には、コロナの状況を踏まえ、実施する方向で良い。
応募対象には、継続的に取り組んでいる活動とあるが、団体の活動の種類によっては、今年度は活動ができていない状況があったり、他に新たな活動をしていたりするところも応募してほしいと考える。
資料10の8確認事項(1)の③にある「別の事例」という部分で、同じ団体でも別の事例で応募するというのは、少し違う内容の活動を応募する場合を指すのか。
- 〈事務局〉：そうである。同じ団体でも複数の活動を実施している場合は、それぞれ一つの事例として応募が可能である。
- 〈委員〉：昨年度も企業の応募の中に、同じ企業でも複数の事例を応募している団体があったと記憶している。
- 〈委員長〉：応募する側の方には、別の事例を記載してくださいというのは、伝わりづらいので、違う活動内容又は別の内容の活動といった具合に分かりやすい表現をしてほしい。
- 〈委員〉：昨年度は、大賞事例を選定するに当たり、委員が集まった際に、NPO、地域、企業等のバランスを考えて大賞の数を選定したが、今年度の一次審査の際には、そのバランスやカテゴリー分けを意識した方が良いのか。
- 〈事務局〉：応募状況にもよるが、事務局から選定方法の案を示すことはできると考える。
- 〈委員〉：応募状況によっては、カテゴリー毎に選定することは難しいかもしれない。偏りがある応募になるかもしれない。
- 〈委員長〉：昨年度、応募する方から応募用紙について、記載しづらい、分かりにくいといった御意見はあったか。
- 〈事務局〉：応募用紙についての意見はなかった。
- 〈委員長〉：そうであれば、今年度は、応募用紙にコロナの影響で活動がどのような状況にあるかを記載いただく欄を追加するイメージになるか。
- 〈事務局〉：そのようにする。
- 〈委員〉：大賞以外の活動も認めていることから事例集にすべての事例を掲載していると考えるので、点数をつけることの意味が良く分からない。平塚の良い活動をしている団体を紹介することや団体間の親睦を深めるための交流会があることにより、横のつながりが生まれ、まちづくりとして活動が活性化すると思う。点数をつける以外の方法がないか。

- 〈事務局〉：一次審査では、大賞事例を選定するための判断材料がないと選ぶことが難しいことから、あくまで参考として点数化していただいている。昨年も順位をつけることには疑問が生じていたことから、複数の事例を大賞とし、大賞以外の事例もすべて事例集に掲載している。
- 〈委員〉：大賞受賞団体から耳にしたが、受賞した側からすると、大賞と言われると1位だと考えるようである。表彰式の場合、大賞が複数事例であることを知ったとのことである。
- 〈事務局〉：昨年大賞を受賞した土沢中学校からは、大変モチベーションが上がり、ぜひ今年度も別の事例で応募したいとの話があった。そのような御意見を聞く限りでは、大賞という賞があっても良いのではないかと考えている。
- 〈委員〉：昨年度は募集する際に、受賞団体数を公表していたのか。
- 〈事務局〉：募集の際には公表していない。
- 〈委員〉：初めから10事例程度表彰するなど、示しても良いのではないか。
- 〈委員長〉：去年は47事例のうち14事例であったなど、示しても良いかもしれない。
- 〈委員〉：資料10の8確認事項の(1)の①から④があるが、いずれかを選択することになるのか。
- 〈事務局〉：①から④までのことが想定される対応ではないかと考えている。
- 〈委員〉：④の応募事例を取り下げるは、悪い印象を与えかねないので、別の言い方に変えた方が良い。
- 〈事務局〉：想定としての文言であったため、応募していただく際には、文言を工夫して誤解のないようにしたい。
- 〈委員〉：同じ事例ではいけないのか。
- 〈事務局〉：同じ事例であれば、最新の情報に更新していただいたものを掲載するという聞き方を考えている。ただし、昨年度の大賞事例であったものは、今年度の大賞選定の対象外となる。
- 〈委員長〉：表彰すること自体が目的ではなく、様々な事例を多くの方に知ってもらい、そこから新たな連携が生まれることを目的とした事業である。一方で、応募していただいた以上、良い活動を大賞としてピックアップしているという具合だと思うので、その主旨が伝わると良い。特に今回紹介したい事例のような言い方で賞を出せると良い。今年度は、継続的に実施している活動を称賛することに加え、コロナ禍での活動状況をシェアするページがあっても良いのではないか。応募用紙には、そういったことを記載する欄を設けても良いのではないか。なお、今までの意見などを踏まえ、今後事業を進めるに際して、応募用紙等の案を委員に提示してもらえるか。
- 〈委員〉：コロナ禍でも頑張っている団体のことが伝わるような工夫が今年度は必要だと考える。
- 〈事務局〉：応募用紙等の文案が出来たら、各委員に御確認いただく機会を設けさせていただく。

6 提案型協働事業について

令和3年度実施の市民提案型協働事業と行政提案型協働事業の企画提案、市民提案型協働事業の一次審査及び中間確認を事務局より説明を行った。

〔委員からの意見・質問等〕

〈委員〉：市内全ての地域へアンケートを実施することに見直したことはとても良い。全地域へのアンケートは大変だが、全地域のデータを持つことにより、見えてくる課題等もたくさんある。

アンケートの内容等もこれから作るものだと思う。また、ガイドラインの理想像をどう考えているか分からないが、アンケートを取ることで、課題等から望ましいものが見えてくる。

〈事務局〉：地域の課題は、地域により異なると考えるため、着地点も地域により違ってくると思っている。今回作成しようとしているガイドラインは、“平塚スタイル”を打ち出す中で色々な地域で使えるようなものにするという方針でいる。

〈委員〉：私自身も団体活動の中で、全自治会にアンケートしたことがある。そこから、自主防災会があるところがしっかりしていることなど明らかになり、明確なビジョンが見えてきたところがある。地域の特性により、課題や着地点は異なると思うが、共通する点もあると思うので、その共通点を明確にしてもらいたい。マニュアルやガイドラインの作成以外にも公民館などでフォーラムを開いたりするとインパクトがあると思う。

〈委員長〉：マニュアルの作成自体にも地域の方に参加してもらおうのか。

〈事務局〉：色々な年齢層の方や自治会以外にも小学校のPTAなど、地域運営をしている方だけでなく、周りの方にもヒアリングしていきたいとのことである。

〈委員〉：色々な連携ができていく地域は活性化しており、魅力的である。そのため、自治会だけでなく、学校なども上手くコミュニケーションできているところが良い地域である。

〈委員長〉：マニュアルを作成することは良いが、その後、使用されないこともあるので、マニュアル自体が着地点が良いのか疑問である。

〈事務局〉：例えば、モデル地域を経て、マニュアルが完成し、次の地域を支援するとなった場合には、そのマニュアルを活用し実際に経験をした地域（当事者）に話を聞きながら支援を実施していくことを想定している。

〈委員長〉：実際に活用でき、後から見直しもできると思うので、その仕組みは良い。

〈事務局〉：最初にマニュアルを作成した団体自身も新たな活動を始める際には、そのスキームを元に実施できる。

〈委員長〉：マニュアルとして、後継者に残っていくということも大切である。

〈委員〉：3年間の事業として考えるなら、先のことまで決めすぎなくても良いのではないかと。コロナなどで、この先不透明な状況でもあるため、年度毎に振り返りつつ、計画を修正しながら進めていけば良いのではないかと。また、今まで地域

運営に関わってもらえていない人にも、アンケートを含めて、いかに関わってもらうかを工夫してもらいたい。全地域にアンケートを取ることは大変だと思うが、アンケートを回答することによって課題に気づくこともできると考えるので、それらを他の地域の人たちも共有できれば、違った視点も生まれるのではないかな。

〈委員〉：平塚は地域によって、特性がある。そのため、最初に事例対象とする地域をどこにするのかは大事な点だと考える。例えば、高齢者の世代交代をすることを考えているのか、または、新しい世代を活性化させることを考えているのかによって違ってくると思う。難しいとは思いますが、そういった点が上手くできるよう期待している。

〈事務局〉：地域づくり市民大学に参加した地域では、自分たちの課題を発見している地域もあった。また、既にやってみたいと考えている地域もあるため、そういった地域をモデル地域として、実施しようと考えている。

〈委員〉：地域の人たちがやってみたいと考えないとなかなか実施は難しい。

〈事務局〉：地域の人との協力がないと実施できない事業であり、そこに入っていくことが課題でもある。

〈委員〉：提案団体としては、7年間地域づくり市民大学を実施してきた中で、地域の人たちから実際の課題等を聞いてきた。それに基づいて、今回の提案をしており、難しい面があることは理解しながらも、実施してみないと何も始まらないことから動き始めた。コロナの影響により、各地域の行事等の見直しについても実施しやすいのではないかな。

〈委員長〉：コロナ禍で、毎年慣例で行っていたことが一旦中止となっている中で、再開するときに、地域運営等を変更するチャンスとなるかもしれない。

7 その他

特になし

閉会